

久留米・筑後体験演習について（ガイダンス資料）

久留米大学では新入生を対象とした「久留米・筑後体験演習」を開講しています。これは希望者が受講する科目ですが、久留米大学の基本理念である「地域に貢献する実践的人材の育成」を目指すものです。入学後のオリエンテーションで内容について説明し、履修希望調査をしますが、その時には十分に考える時間がないため、事前に概要をお知らせしますのでご検討下さい。

この科目は久留米大学に入学した1年生が、まずは久留米・筑後地域の文化・経済・地域社会などについて知り、これからの大学生活の学修目標について自ら考えることを目的にしています。下表に挙げてある演習先のなかで、自分の興味深いところ1カ所に2～3人のグループで出かけていき、担当者からの講義や仕事体験を通して、現場の実情を学びます。そして、大学内の授業では、現地で学んだことをレポートにまとめたり、分からなかったことを調べたりします。これらの体験演習は、社会の現実を知り視野が広がるとともに、大学での勉強方法を身に付け、職業選択の基盤にもなるでしょう。

（久留米・筑後体験演習の目的・到達目標・日程などは裏面の講義計画書参照）

- ① 体験演習先までの往復時間がかかりますので、授業のある平日は難しく、基本的には土曜日の午前か午後の演習です。
- ② 基本的に1回が180分（90分×2）で、月に2～3回程度です。
- ③ 交通費と保険費用等は大学から支給され、自己負担はありません。（医学部除く）**※交通費については事後清算です。**

なお、何か授業のことで分からない事や質問等があれば、下記のメールアドレスまでお尋ねください。

kurume.chikugo.taiken@gmail.com（篠倉・村江）

体験演習先の概要

分野	NO	体験演習先	内容（体験して学ぶこと）
文化	1	久留米市美術館	美術館展示の準備作業や館内職員の役割の理解
	2	石橋文化センター	久留米市の文化振興の企画・広報の準備と活動体験
	3	福田屋染物店（後期のみ）	旗づくり・染物体験による伝統工芸の理解と風土文化発信（後期のみ）
	4	高良山同志会	市無形文化財の獅子舞を通して伝統芸能の継承について学ぶ
福祉教育	5	社会福祉協議会	地域で住民の福祉活動や高齢者サロン・子育て支援活動体験
	6	社会福祉法人こぐま福祉会	障害をもつ子ども・人を支援するスタッフの補助
	7	就労支援“藍”	精神・知的障害をもつ人とカフェでの食事準備・サービス作業
	8	小中学生の学習支援	小中学生の学習支援と子ども達との交流（※平日・土曜夕方体験）
	9	子育て交流プラザくるるん (インスタ QRコード)	 乳幼児や子育て中の保護者とのふれあい・子育て支援活動体験
	10	子どもプロジェクト	子ども・若者の居場所づくりに関する活動
	11	青少年科学館	日曜、祝日開催の科学工作教室（工作物は簡単）の補助、その他
産業商業経済	12	筑後川流域連携倶楽部	筑後川流域文化と経済振興の企画と実践活動
	13	久留米商工会議所	久留米市の商工業振興に関する企画と研修への参加
	14	株式会社駅前不動産 （後期のみ）	土地、事務所、住宅などの販売・賃貸・仲介業務等の実務理解
	15	株式会社森光商店	穀物専門カフェにて、カフェ業務全般について学ぶ
	16	観光コンベンション国際交流協会	観光コンベンション協会の事業理解、観光振興活動体験
地域貢献	17	NPO 法人がんばりよるよ星野村	星野村での豪雨被害復興支援ボランティア体験と地域交流
	18	若者が創る会社「Camp」	地域活動を通じて仕事や生活の「楽しさ」を学び、体験する

- * 希望者多数の場合は抽選による選考になります。
- * 体験演習先の事情により受け入れができない場合もあります。
- * 各体験先名をクリックすると、体験先 HP へリンクされます。

久留米・筑後体験演習 講義計画

* 前期と後期に、それぞれ同じ内容の学外体験演習・学内講義が行われます

科目名	期別	単位数	開講年次	曜日	担当教員名
久留米・筑後体験演習 (a) 前期 久留米・筑後体験演習 (b) 後期	半期	2	1年	土曜	篠倉 大樹 村江 史年
講義の目的	久留米・筑後圏域をキャンパスと見立てるフィールドワークにより、1) 地域の自然・歴史・文化、少子高齢化、経済変動、地域社会の変化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えること、2) 久留米、福岡、日本、アジアそして世界を知ること、3) 課題発見・探求能力、行動力、社会性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の基礎的な力を身につける。				
到達目標	人間力を養い、その後の大学生活において自分が学ぶべきことを認識して主体的に学問に取り組む姿勢を身に着ける。				
講義計画	<p style="text-align: center;">(新入生オリエンテーション時； 科目説明・受講希望調査)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、グループ分け、体験演習の意義 2 マナー、言葉づかい、社会規範、分野別注意事項 3 分野別専門講義 基本知識、学びのポイント 4 第1回体験演習 5 第1回体験演習 6 大学内講義 図書館活用、文献調査 7 大学内講義 図書館活用、文献調査 8 第2回体験演習 9 第2回体験演習 10 大学内講義 レポート作成、グループワーク 11 大学内講義 ディスカッション、発表資料作成 12 第3回体験演習 13 第3回体験演習 14 大学内講義 プレゼンテーション 15 大学内講義 プレゼンテーション 				
準備学習	<p>毎回の体験演習の振り返り（事後学習・反省）を行い、次の体験演習までに十分な準備学習をすること。その積み重ねが学習効果を高める。</p> <p>体験演習前は特に体調を整え、万全の状態での臨むこと。</p> <p>体験演習中は自身が成長することを意識しながら取り組むこと。</p>				
履修の注意	欠席・遅刻は原則として認めない。学外演習において社会ルールを守り、責任ある行動を行うこと。指示される報告や連絡は必ず行うこと。事前学習や演習において態度が不適切である場合は、現地体験を中止する場合がある。				
評価方法	体験先での地域講師による評価（50%）、学内講義の授業態度（30%）、レポートあるいはプレゼンテーションの評価（20%）を総合して評価する。				
教科書参考書	必要に応じて適宜指示する。				